

ドイツアート Bar Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、Bar のようなくつろいだ雰囲気、アートを語り合うイベントシリーズです。鴨川のほとりのヴィラ鴨川では、ドイツの芸術家たちが滞在して様々な創作活動を行っています。今回は、1月中旬に来日するドイツの芸術家たちが、3ヶ月間のレジデンス滞在の最初に、世界のアートシーンに精通するアートジャーナリスト小崎哲哉氏の司会のもと、京都を拠点に活躍する日本人クリエイターとともに語り合います。

今回のテーマは、『伝える、承ける、創り出す』。現代は昔ほど伝統にしばられることも無く、私たちは一人ひとりのやり方で伝統と関わって生きています。文化や社会はこれまで受け継がれてきた営みを通して発展し、時には伝統が解釈し直されて新たな創造が生まれたり、時には否定され衰退したりしてきました。京都は「伝統と革新の街」ともいわれます。では他の国々や文化圏はどうでしょうか？ 座談会を通じて、今を生きるクリエイターたちの様々な伝統と現代への向き合い方が見えてくることでしょうか。

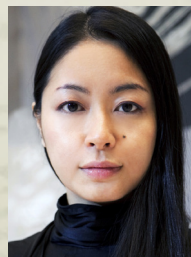
座談会の後は、館内のドイツカフェ「カフェ・ミュラー」にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。



Photo: Chris Bierl

クリス・ビアル Chris Bierl (美術作家)

1980年生まれ。ベルリンおよびライプツィヒ在住。ミュンヘンやライプツィヒで、情報科学、建築、写真デザインを学んだ。工業素材やビデオを用いた精緻なインスタレーションを創作し、ドイツ、アメリカ、モンゴルなど各地の国際展に参加。数多くの賞を受賞。京都滞在中は、水墨画などの日本の伝統美術や現代アートの技法を考察し、自身のコンセプチュアルな作品づくりに活かす予定。公式サイト www.chrisbierl.com



川尾 朋子 Tomoko Kawao (書家)

1977年生まれ。同志社女子大学卒業。京都在住。6歳より書を学び、国内外で多数受賞。2004年より祥洲氏に師事。点と点の間にある、見えない空中での筆の動きに着眼した代表作「呼吸」シリーズを展開。阪急嵐山駅の「嵐山」、NHK大河ドラマ「八重の桜」OP映像など、展覧会、ライブパフォーマンス、新聞、TV、ファッション等のあらゆる媒体に登場する文字や墨表現を手掛け、国内外で好評を得ている。公式サイト www.kawaotomoko.com



Photo: Michael Hansmeyer

ミハヤエル・ハンスマイヤー Michael Hansmeyer (建築家)

1973年生まれ。2008年よりスイス連邦工科大学チューリッヒ校講師。アメリカでコンピューターサイエンス、経営学、建築を学んだ。アルゴリズムやコンピューター計算による建築方式を研究し、光州デザインビエンナーレやオルレアンのアーキラボでの展示で高い評価を受ける。京都滞在中は、日本の伝統建築と現代建築の「設計法」を分析し、伝統的な設計法と最新技術を結びつけた新しい建築言語を模索する予定。公式サイト www.michael-hansmeyer.com



永松 仁美 Hitomi Nagamatsu (昂 KYOTO 店主)

1972年京都生まれ。書画や絵画、古器などの古美術を扱う『てっさい堂』の長女として育ち、両親の影響を受けながら感性と審美眼を磨く。嵯峨美術短期大学卒業。2008年、西洋アンティークと古伊万里、現代作家の器で独自のコーディネートを提案する店「tessaido annex 昂」を京都・古門前にオープン。2012年、「昂 KYOTO」と名前を改め祇園町へ店舗を移転。様々なジャンルの企画展も積極的に開催している。公式サイト <http://koukyoto.com/>



Photo: Jan Klopfleisch

ヤン・クロップフライシュ Jan Klopfleisch (美術作家)

1972年生まれ。ベルリン在住。ベルリンで絵画を学んだ後、ドイツ内外で絵画やインスタレーションを発表。2004年と2006年、DAAD奨学金を受けて日本に短期滞在し、京都でも「段ボール箱の家」等の展示を行った。抽象性や具象性をこえた絵画のあり方を探る作品づくりを展開。ヴィラ鴨川滞在中は、駅構内など匿名性を持つ都市空間、および、日本の庭園文化を考察し、芸術的なアプローチを試みる予定。公式サイト www.janklopfleisch.de



小崎 哲哉 Tetsuya Ozaki (司会・構成)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALTOKYO』『REALKYOTO』発行人兼編集長。CD-ROMブック『デジタル歌舞伎エンサイクロペディア』、写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学院、同志社大学、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。2014年秋、『百年の愚行』続編を刊行。



© Susanne Schleyer

ゲジーネ・シュミット Gesine Schmidt (劇作家・ドラマトウルク)

1966年生まれ。ベルリン在住。ボッフムで比較文学と演劇学を学んだ後、ベルリン・ドイツ座やマキシム・ゴーリキ劇場等でドラマトウルクを務めた。劇作家・ラジオドラマ作家としても活躍し、ドイツ語圏の主要劇場で作品が上演されている。特に映画監督A.ファイエルと共に執筆した戯曲『キック』は舞台化・映画化され、多数の賞を受賞。ヴィラ鴨川滞在中は、多くの日本人女性にインタビューを行い、日本の女性の現状を描いた戯曲を執筆する予定。

交通のご案内
京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分



主催・お問い合わせ
Goethe-Institut Villa Kamogawa
京都市左京区吉田河原町 19-3
(川端通り荒神橋上る)
TEL: 075-761-2188 (内線 31#)
info@villa-kamogawa.goethe.org
www.goethe.de/villa-kamogawa



館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。

